



よくある質問 (妊婦、授乳中の歯科治療編)



患者様からの御質問

妊婦ですが、歯周病が胎児に影響を与える可能性がある聞きました。具体的などのようなリスクがあるか教えてください。



当院からの回答

一般に歯周病がある妊婦は歯周病でない妊婦と比較して早産、低体重児の可能性が高くなると言われています。また、出生児の精神発達障害、脳性麻痺、てんかんなどのリスクが増加するという報告もあります。妊娠中は特にプラークコントロールが大切になると言えます。

患者様からの御質問

妊娠すると歯肉炎になりやすいと聞いたことがあります。本当ですか？



当院からの回答

歯周病の原因となる細菌はいくつかの細菌が指摘されていますが、そのうちの1つに女性ホルモンが増殖の1因子に細菌が存在します。妊娠期には女性ホルモンの分泌が増加します。その影響でその細菌が増殖し歯肉炎になることがよくあります。

患者様からの御質問

妊娠後期の歯科治療で注意することはありますか？



当院からの回答

妊娠後期は胎児が大きくなり子宮も大きくなるので歯科治療時の体勢が重要となります。子宮が血管を圧迫し血圧が低下することによる様々な症状が起こる可能性があります。妊娠後期の歯科治療は体調が良い日を選び、また、治療中気分が優れない場合はすぐにスタッフへ御伝えください。
(仰臥位低血圧症候群)

患者様からの御質問

妊婦ですが、歯科治療での麻酔が胎児に影響することはありませんか？また、出産後、授乳中の麻酔下での治療で授乳に影響することはありませんか？



当院からの回答

妊娠期、授乳中においても安全に使用できる麻酔薬はあります。

患者様からの御質問

妊娠初期ですが、つわりで歯磨きができません。どうすれば良いのでしょうか？



当院からの回答

うがいでだけでもお口の中は清掃できます。頻繁にうがいを行うようにしてください。

患者様からの御質問

妊婦に対して安全な鎮痛剤や抗生剤はありますか？



当院からの回答

原則として妊婦への投薬は致しません。ただし、不可避な場合においてのみ投薬することもあります。その場合、比較的安全とされている薬剤の投薬となります。また、妊娠初期や難しい症例では産科医と相談の上投薬を決定することもあります。

患者様からの御質問

妊娠中に妊婦がキシリトールを積極的に摂取することで胎児のむし歯予防になると聞いたことがありますか、本当ですか？



当院からの回答

そのような報告がない訳ではありませんが、キシリトールの過剰摂取は腸内細菌のバランスを壊すのであまり御勧めできません。また、この報告そのものについても疑問視する専門家も少なくありません。まずは、自分自身とお子様の口腔内の衛生状態を良好に保つ努力をしましょう。

患者様からの御質問

妊娠中に歯科治療の為にレントゲンを撮影することでの胎児への影響について教えてください。



当院からの回答

日本で生活していて1年間に浴びる放射線量は歯科治療で撮影するレントゲン写真約200枚ぐらにあたります。さらに、防護エプロンを使用していますので胎児にはほぼ影響はないと言えますが、妊婦へのレントゲン撮影は必要最低限の時のみ行うことが原則となります。

患者様からの御質問

妊娠中に子供の歯を強くする為にできることがありますか？



当院からの回答

妊婦が歯を形成する為に必要な栄養素を摂取すれば胎児の歯が強くなるという報告があります。歯を形成する為に必要な栄養素については別紙に記載、説明がありますので、御覧ください。

患者様からの御質問

授乳中に母親が薬を飲むことはどの程度のリスクがあり、どんな種類の薬が良くないのか具体的に教えてください。

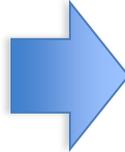


当院からの回答

母乳から出る薬の量は極めて少量で、その母乳から出る薬の量は乳児が必要な時に飲む量の1/100程度だとのこと。また、お母様が飲んでいる薬剤は乳児が飲むものと同じで、シロップか粉薬という違いのみです。本当に母親が飲むと危険な薬剤は抗がん剤や麻薬(一部治療に使用されることがある)などです。

患者様からの御質問

フォローアップミルクは必要ですか？



当院からの回答

1989年に米国小児科学会、WHO(世界保健機構)にて『フォローアップミルクは不要である』、また1990年日本小児栄養消化器病学会にて『わが国ではフォローアップミルクは必要とする理由はない』という声明があります。詳細は院長まで御質問ください。

患者様からの御質問

『断乳』と『卒乳』の違いについて教えてください。



当院からの回答

『断乳』とは、授乳を無理にでも終了することを意味しています。『卒乳』とは、自然に授乳を卒業することを意味します。つまり、乳児が授乳を終了するにあたり、周囲の環境があるかないかということです。小児科医と小児歯科医で意見が分かれるところであり、その結果言葉の使い方が異なります。